

平成30年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋小学校

学校の教育目標

- ・礼儀正しい子（きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子ども）
- ・よく考える子（創意工夫をこらし、主体的に学び続ける子ども）
- ・やりぬく子（勤労と責任を重んじ、何事にもねばり強く努力する子ども）
- ・健康な子（明るく、心身ともに健康な子ども）

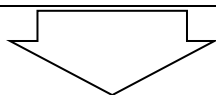
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- 目標「自分の考えをもち、主体的に学び続ける子どもを育てる」
- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ・問題解決的な学習や体験的学習を通じた思考力・判断力・表現力の育成
 - ・話し合い活動を通し自分の考えを深めたり、広げたりさせる ・習熟の程度に合わせた指導や少人数指導の充実

平成29年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「感想文」や「意見文」などの文章を書く際に、文章構成や語彙などを意識しないで書いている。 ・上記調査項目の結果から「言語」についての知識・理解が低い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要感をもって文章を書く経験が少ない。 ・新出漢字の習得や辞書を使っての意味調べなどの学習が一人一人に定着していない。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も上記調査項目で「思考・判断」については正答率が低いので、今後の課題である。日常の学習の様子でも、自分の考えを図や数直線などで立式・説明することが苦手である。 ・低学年を中心に、問題の意図を読み取り数学的に考える力が低い。(東京ベーシック・ドリルからの分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を論理的に考え、その考えを説明する力が未だ育っていない。 ・基礎を活用し、文章題の応用問題に答える力が育っていない。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表から情報を読み取るといった「思考・判断」の力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフから情報を読み取ったり、多数の情報を整理して考察したりすることに苦手意識をもっている児童が多い。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・上記調査項目の結果から、他の観点に比べ、「観察・実験の技能」の定着がやや不十分である。また、実験・観察結果から、筋道を立てて論理的に考える力がまだ育っていない。 ・自然事象への関心が全体的に低い。(全国学力向上調査などからの分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験や既習事項から、結果を主体的に考えられない児童が多い。 ・自然の事象に触れる機会が少なく、関心が低い。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の体力測定の結果から、各学年とも「持久力」と「跳躍力」に課題がある。全体的に他の項目も低く運動技能に個人差が大きい。 ・「投力」と「持久力」の値が全体的に低い。(H30年度体力調査からの分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びより内遊びを好む児童が多く。運動経験に差が大きい。 ・長時間の運動を苦手としている児童が多い。また、日常的にボールを投げる経験が浅い。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	基本的な授業規律（次の授業の準備をする、時刻を守る、相手の目を見て話を聞くなど）を守ることができるようにする。学校評価（保護者アンケート）の関連する質問項目で80%以上の肯定的な評価を得ることを目指す。
② 授業改善	授業での児童の様子や各単元のまとめや学力テストの結果をもとに授業づくりを見直し、児童の実態や理解度により適した授業へと改善を図るようにする。各学年、各教科において都や国の学力調査において平均正答率を上回ることができるようにする。
③ 教員の指導力	校内研究や各学年での教材・授業研究や様々な経験年数の教員を混成した5, 6名ずつのグループを編成してのOJTの実施により指導力の向上を図る。全教員が年間3回以上の授業公開や実技研修などを行うようにする。
④ 家庭との連携	学校から家庭学習の時間や自主学習の内容や方法の目安を提示する。未提出者は学校で確実に行わせるようにする。学校評価（保護者アンケート）の関連する質問項目で80%以上の肯定的な評価を得ることを目指す。
⑤ その他	朝読書や学校図書館指導員、日本橋図書館との連携によって、読書に親しむことができるようにする。6月以降毎月2回放課後補習教室、夏休みに4日間のサマースクールを行い、前学年までの学習事項の復習や当該学年の学習の基礎基本定着のための支援をする。水泳の泳力向上を図り、2日間の特別練習期間を設ける。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	授業後、休憩時間、休み時間に離席する前に、次の授業の準備をすることを習慣付ける。オルゴールやチャイムの合図を守って、遊びや休憩を終え、決められた時刻で授業を始められるようにすることができるようにする。
取組Ⅱ	話を聞くときは話す人の目を見て、最後まで聞くこと、話すときは相手を見て、聞き取りやすい声の大きさや速さで話しをすることができるようにする。
取組Ⅲ	持ち物には記名し、前日に持ち物の準備をして忘れ物をしないこと、学習に関係のないものは持ってこないことなど、家庭と連携し指導を行う。
②授業改善	

取組Ⅰ	学習指導要領や教科書をもとに、本校で行われてきたこれまでの実践を生かした児童の実態に合った授業プランや指導計画を編成し、児童の学習意欲や理解度を高めることができるようにする。
取組Ⅱ	授業における児童の様子や各単元のまとめや学力テストなどの結果をもとに各学年、学級の課題を分析し、重点的に指導を行ったり、改善、向上に向けて継続的な取り組みを実施したりする。
取組Ⅲ	対話を通じた学び合いを重視した学習活動を授業の中に取り入れ、互いの考えを深めたり広げたりする。本校の研究の柱の一つを「学び合い」とし、各発達段階に即した学び合いの仕方を研究していく。

③教員の指導力

取組Ⅰ	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるために、全学年で授業規律を共有し、児童の興味・関心を高め、学習に意欲的に参加できるように指導を行う。
取組Ⅱ	問題解決的な学習や体験的学習を工夫して、自分の考えをもって学習に取り組み、話し合い活動により自らの考えを深めたり、広げたりする学習を通して、自ら学ぶ態度を育てる。
取組Ⅲ	日常の学習状況や学習力サポートテストなどの結果を基に、指導方法の改善をし、児童一人一人が確かな学力の定着をできるよう、習熟の程度に応じた指導の充実を図る。算数においては、東京ベーシック・ドリルの結果を分析し指導の改善を行う。

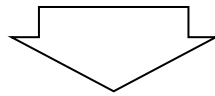
④家庭との連携

取組Ⅰ	各学年、学級の実態に応じて継続的、計画的に課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けることができるようにする。また、家庭学習が行えているか、提出ができていないかを家庭にも確認してもらう。
取組Ⅱ	連絡帳や学年便り、電話連絡を通して家庭との連絡を密にする。学校での児童の成長や課題等、対応を伝えると同時に、家庭での様子や保護者の要望なども伝えてもらい、児童理解や指導を進めていく。
取組Ⅲ	サマースクールや B 時程の日の放課後補習授業の意図を丁寧に説明することで保護者に理解と協力を得て、夏季休業中や放課後を活用した個別指導の充実を図る。

⑤その他

取組Ⅰ	B 時程の日の補習の日を利用し、学習の定着が十分ではない 3～6 年生児童を放課後に集め、東京ベーシック・ドリルや学年で活用しているドリルなどを活用して、放課後補習教室を行う。
取組Ⅱ	3～6 年生児童を対象に、夏休みにサマースクールを実施し、一学期の習得が不十分な個所を学習したり、夏休みの課題の困難な個所の解決を手助けしたりする。

取組Ⅲ	低、中、高学年、専科教諭で分科会を作り、OJT 担当主任教諭のリーダーシップのもと、OJT 研修を行う。ベテラン教員の技術、知識を若手教員が共有できるよう記録を共有し、実践を進める。
-----	---



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で授業規律を統一し、同じ目標で取り組んで、時刻を守る意識はついてきた。学習用具については、保護者の協力を求め、学習しやすい用具を整えることができた。 ・時間を守る意識が高まり、決められた時刻で学習に取り組めるようになった。 ・学力基盤に関する保護者アンケートが90%以上の肯定的な評価を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に関係のないものを持ってくることがあったため、指導を徹底する。 ・話を良い姿勢で相手の目を見て聞くことができない児童が多いため、話を聞く指導を改めて徹底する。そのために、国語や学級活動等で必然性のある話し合い活動を設定し、話す・聞く力を身に付けさせる。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科や体育科などにおいて、本校で行われてきたこれまでの実践を生かした指導計画を編成し、児童の意欲や理解度を高めることができた。 ・児童同士で話し合う活動を設定し、考えを広げたり深めたりさせることができた。 ・区サポートテストや都の学力調査、全国の学力調査の全科目の観点別点数において、各学年ではほぼ全体の平均正答率を上回ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った授業プランを編成し、児童の学習意欲や理解度をさらに高められるようにしていく。 ・個別の課題がある児童について適した支援が十分でなかった。児童の実態や理解度により、適した家庭学習やワークシート、到達目標を設定し、進級後も引き継いで学力向上をめざす体制を維持する。 ・個々の児童の到達度を担任が詳しく把握し、児童・保護者に詳しく伝え、改善方法を相談しながら計画する。
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT 研修を生かし、ベテラン教員から若手教員まで学習規律の共通理解に努めた。 ・生活指導部を中心に検討し、各学年の学習に合わせ、持ち物等の学習環境を整えられるよう指導した。 ・校内研究で課題の共有化や効果的な指導方法を学び、指導力向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT 研修を通じてベテラン教員から若手教員へ授業実践例や指導法を共有できる場面を増やし、指導力の向上を図る。また、研修時間を確保できるように、会議や行事を精選し、時間を確保していく。 ・児童の実態にあった指導法の工夫を、組織的に高められるよう計画していく。

<p>④家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の実態に応じて継続的に課題を出し、家庭学習の習慣を身に付けさせることができた。 ・東京ベーシック・ドリルの到達結果を毎学期保護者に渡し、連携を図ることができた。 ・低学年においては、「生活の振り返り」や週予定に保護者の確認欄を設け、児童が課題に取り組んでいることを確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や電話で家庭との連絡をより密に取り、児童の指導に当たることができるようにする。 ・学校評価保護者アンケートでの、家庭学習に関する項目の肯定的な評価は79%だった。引き続き家庭学習を充実させ、学力の向上に結びついていることを知らせ、連携を深める。 ・学校便りや、学年便り、学校HPなどで行事や児童の様子を各家庭に分かりやすく伝えていく。
<p>⑤その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サマースクールや放課後の補習教室を実施し、習熟が不十分な児童への支援を行うことができた。 ・朝読書の週間、課題が終わった後に読みかけの本を読む習慣がついた。 ・おすすめの本リストを配布し、図書館から団体貸し出しを行って、学年にふさわしい本を手取る機会を設定した。 ・夏季水泳指導期間に泳力向上の特別期間を2日間設け、指導を行い児童の泳力向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシック・ドリルに取り組んだ結果を担当や算数少人数担当が共有し、個に応じた指導を徹底し、学習内容の定着を図る。 ・朝学習で定期的に算数を中心に東京ベーシック・ドリルを活用し、学習内容の習得が不十分な児童への支援を充実させると共に、基礎的な学力の全体的な底上げを図る。 ・読書については、集中して読める場の工夫や本の紹介を取り入れる。 ・夏季水泳指導期間における泳力向上の特別期間は次年度も継続して行う。